

五柳亭徳升撰
歌川國安畫

~ 13
3800





前帙

五柳亭徳升撰
歌川國安圖

菅原實傳記

丁亥初春 僊鶴堂上梓

壹



夫文武二道の天下に改たるとして諸術の一巻之抑武ありといふも
 文をた時の國治るは本々其國本朝も是と一とあり朝は文才の菅
 公こそ是るべし和漢の書小連下文字に黒白と論はけり素和歌は
 其の末に極深ありといふは其の賢哲は良臣名月傳雲に
 依りて元亨秋書朗詠本の由きよと集めて由一代の事と四つは若
 子ぐま知らざる人々の合巻五冊の繪及紙と處て菅原實傳記
 と歎ま

文政十年丁亥春新鑄

龜戸東宰府の邊に住る
五柳亭徳升述





元元元年はあんと
 十五夜はけんがましくてあまをさか
 この中なる
 同五月は
 大志す

元元元年はあんと
 十五夜はけんがましくてあまをさか
 この中なる
 同五月は
 大志す



あん
 元元元年はあんと
 十五夜はけんがましくてあまをさか
 この中なる
 同五月は
 大志す

梅花以照
 如暗塵
 月耀
 鏡轉 庭上玉声

元元元年



りくせ師のよりのこれをつりてあまよ
 志の師と父のりつをまき大に...



□これく... 天竺...
 ... 天竺...
 ... 天竺...



和年日



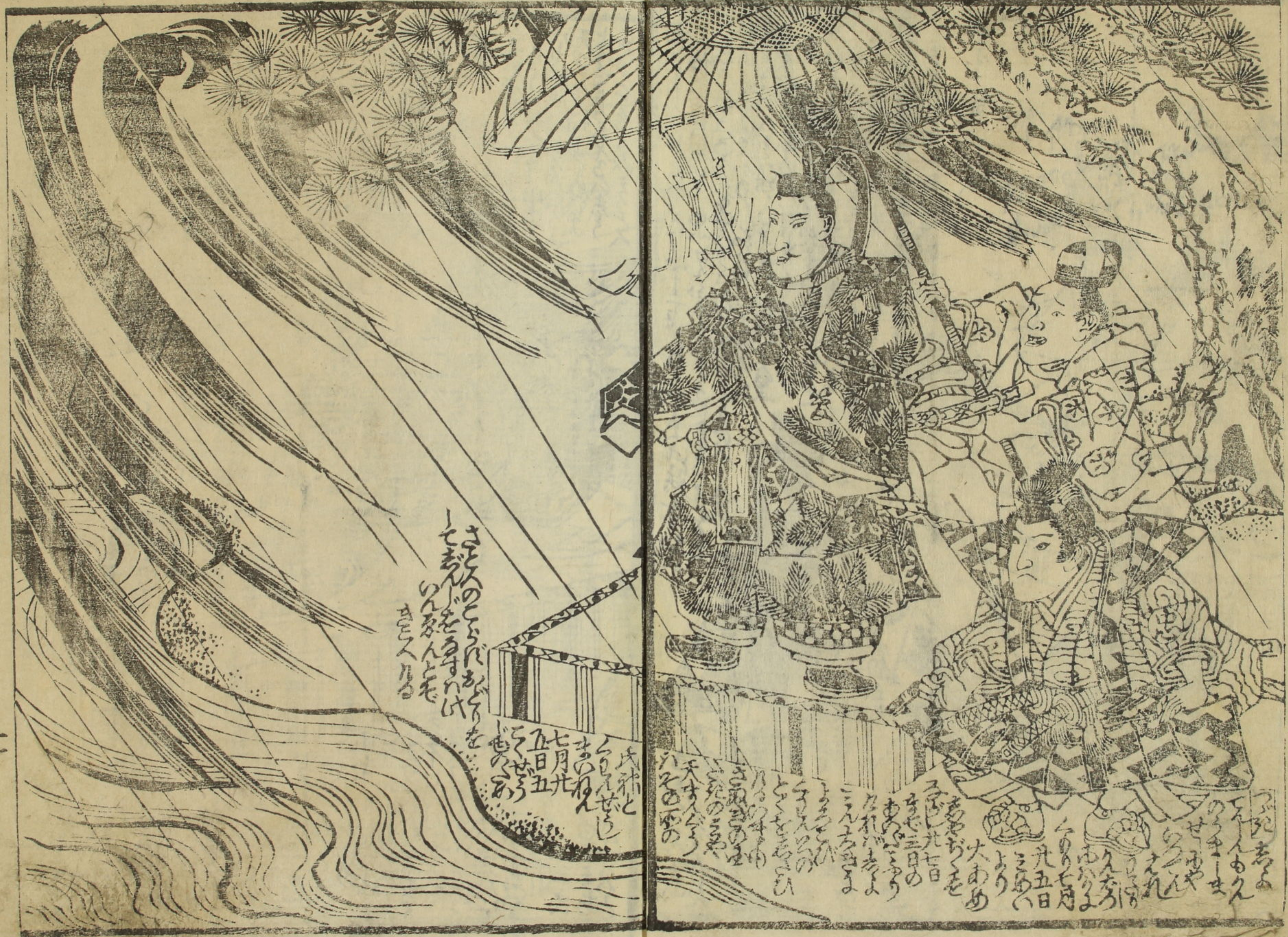
仁和二年八月八日
 後北條の軍に大敗し
 武田勝頼は駿河へ退き
 各將士の死傷甚多
 武田は衆を率ひて
 駿河の西へ退き
 各將士の死傷甚多
 武田は衆を率ひて
 駿河の西へ退き
 各將士の死傷甚多
 武田は衆を率ひて
 駿河の西へ退き

武田勝頼は駿河へ退き
 各將士の死傷甚多
 武田は衆を率ひて
 駿河の西へ退き
 各將士の死傷甚多
 武田は衆を率ひて
 駿河の西へ退き



ついでに
 をえせり
 きりめて
 りの
 ともね
 さんけん
 まるの
 せい
 して
 月

ついでに
 をえせり
 きりめて
 りの
 ともね
 さんけん
 まるの
 せい
 して
 月



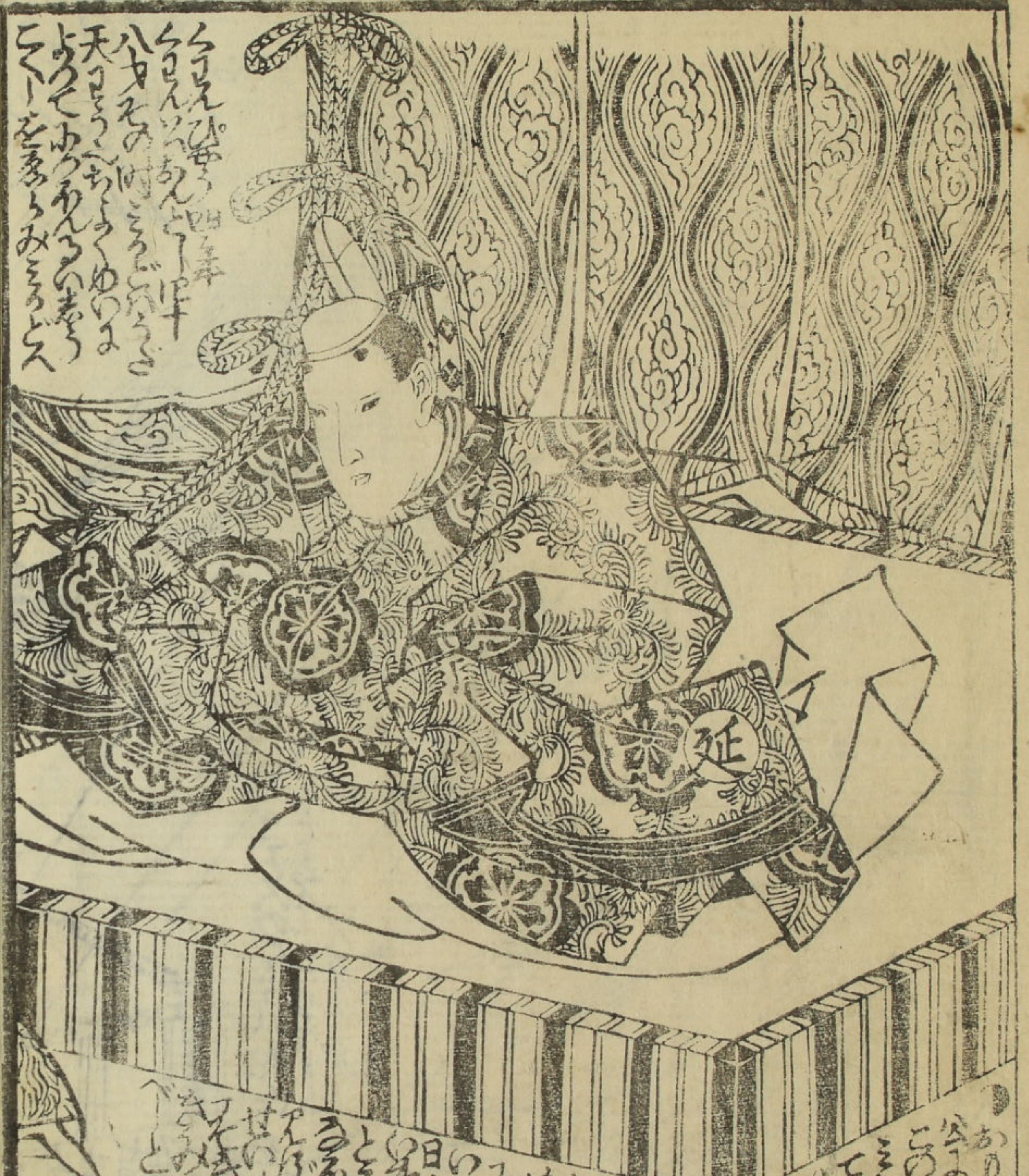
十の科

さとののころばあぢを
しとまんとをすけ
いんあんとを
まゝ入る

氏神と
いふにせじ
まのね
七月廿
五日
らせう
もろあ

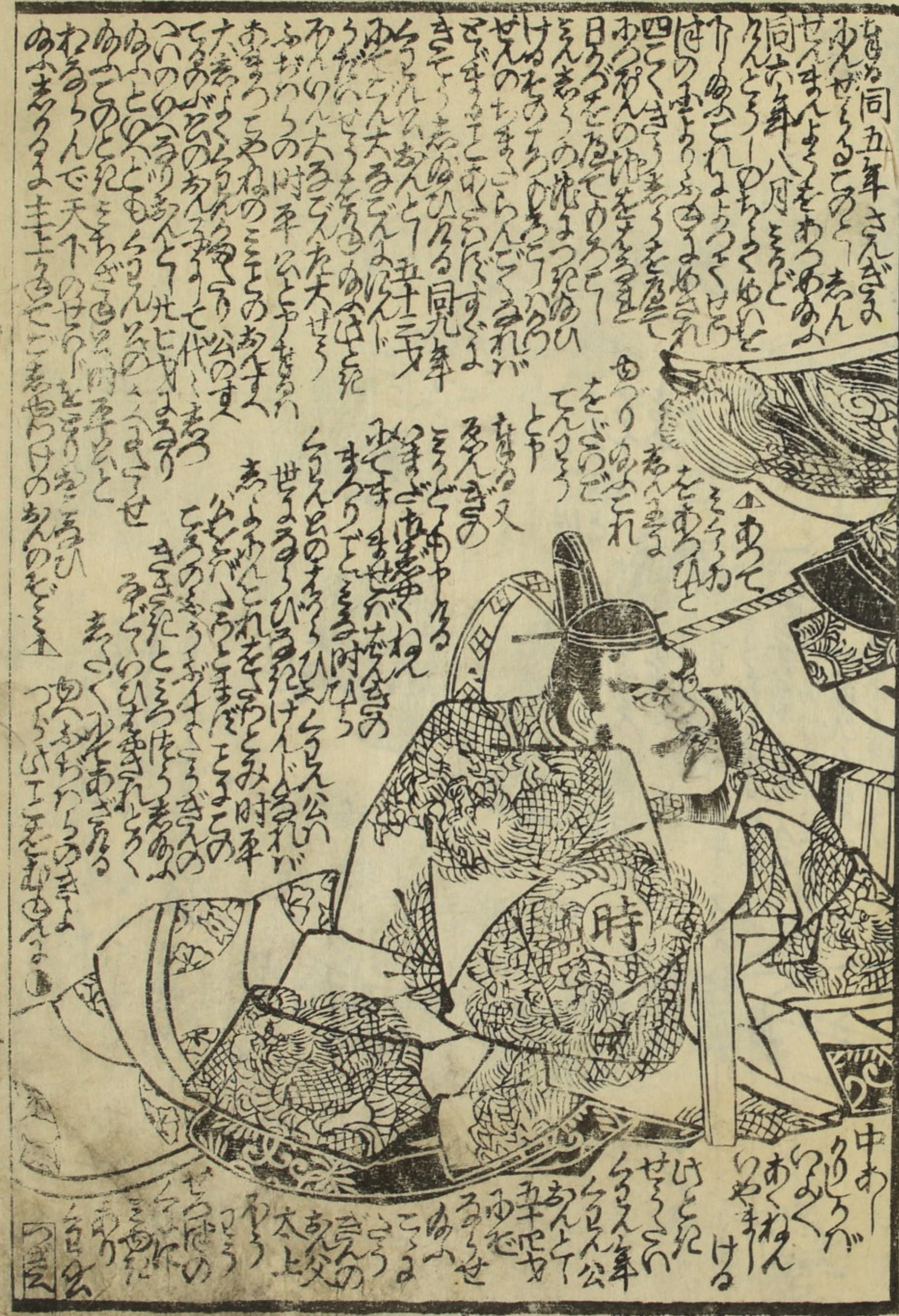
つひと
ふんもえ
のうま
せうや
のうま
えれ
より
九月
十五日
より
大あめ
あぢくを
まの九七日
あぢくを
なれいより
まんちよ
まのあ
さくを
さくを
さくを
天す
外その
あ

七



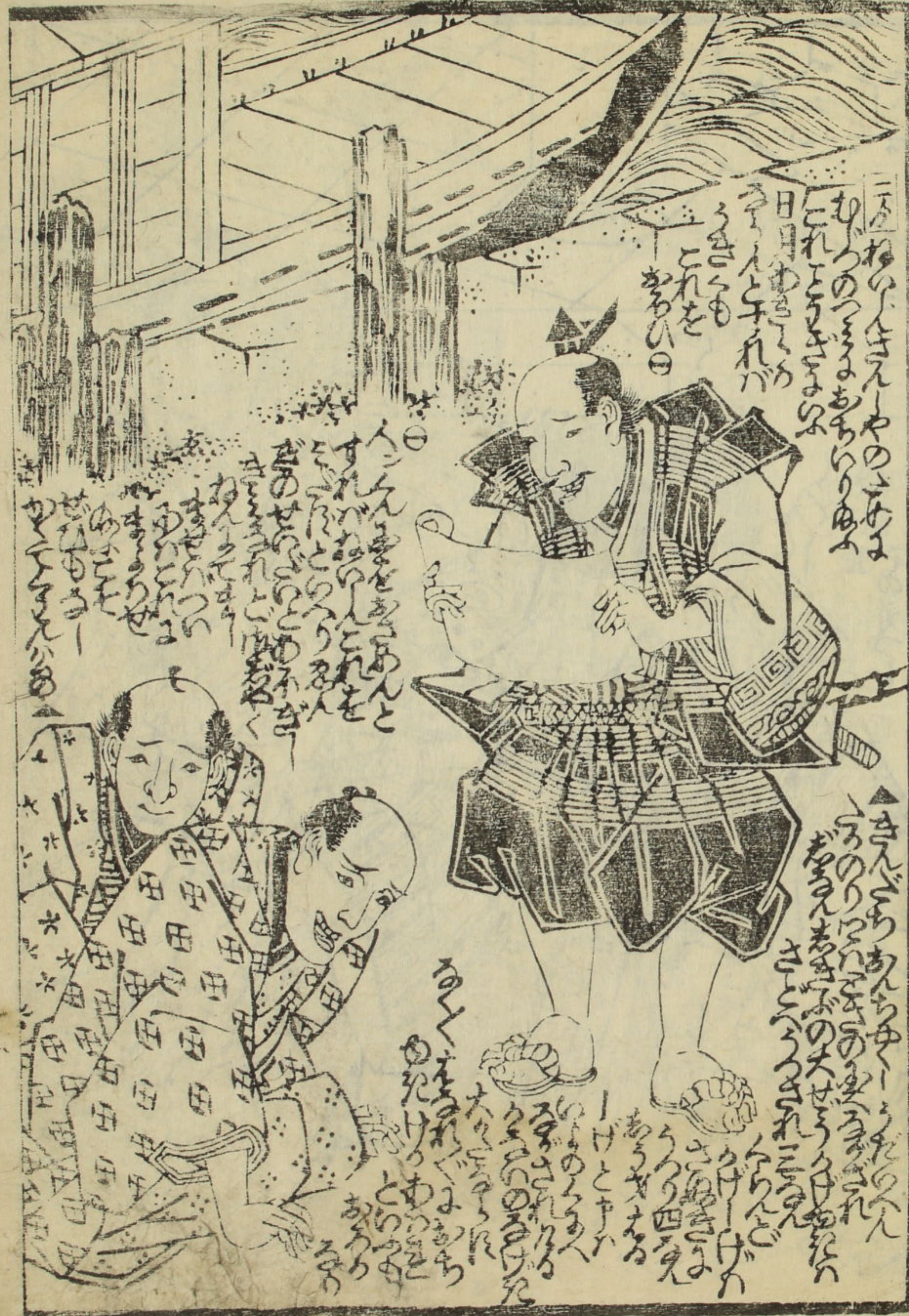
延慶五年八月三日
 延慶五年八月三日
 延慶五年八月三日
 延慶五年八月三日

延慶五年八月三日
 延慶五年八月三日
 延慶五年八月三日
 延慶五年八月三日



延慶五年八月三日
 延慶五年八月三日
 延慶五年八月三日
 延慶五年八月三日

延慶五年八月三日
 延慶五年八月三日
 延慶五年八月三日
 延慶五年八月三日



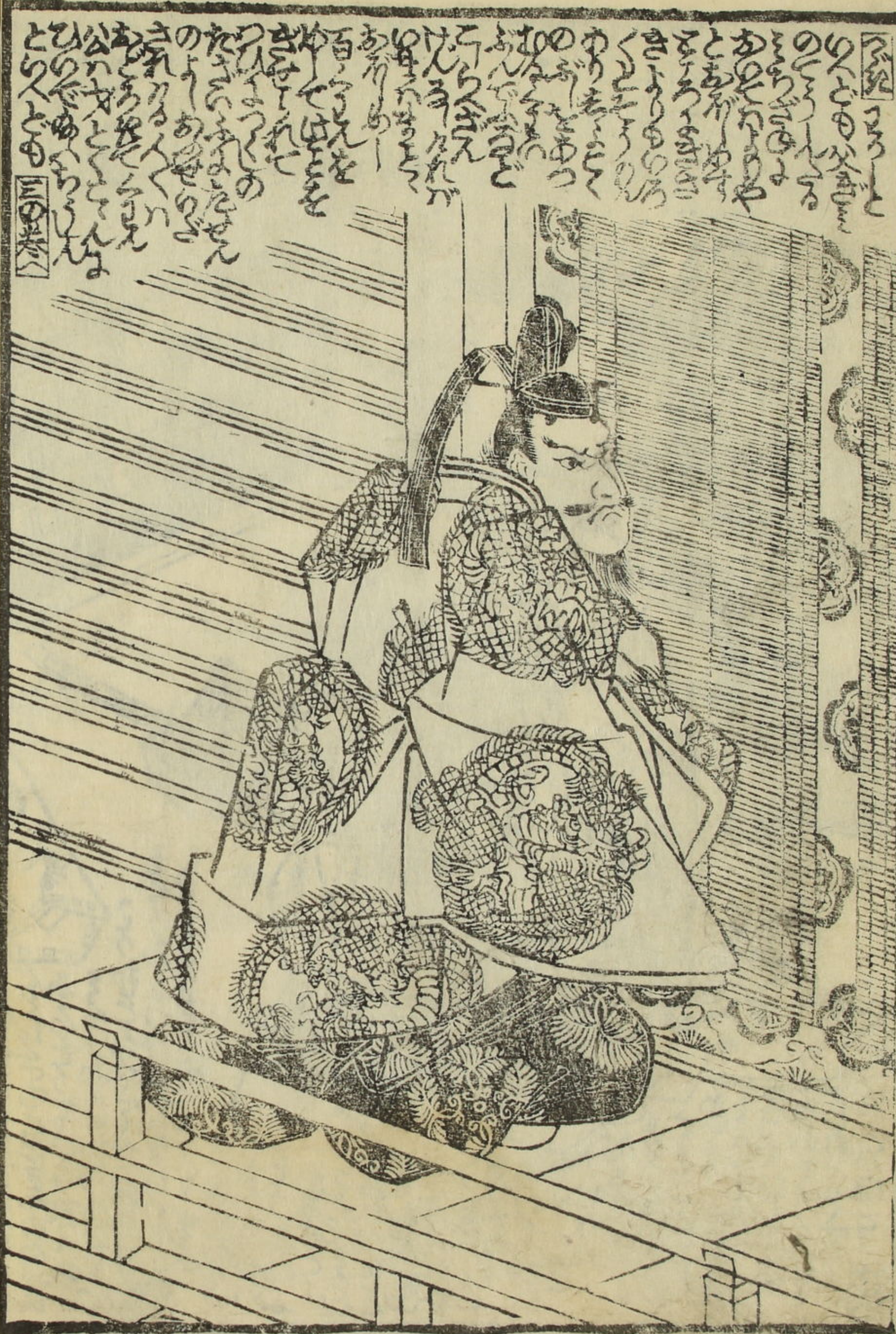
二 夫 頼 朝 の 人 守 一 万 の 言 事
む ね の つ ゝ ゝ ぶ ち ち の ら ぬ
日 月 ち ゝ ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

人 守 一 万 の 言 事
む ね の つ ゝ ゝ ぶ ち ち の ら ぬ
日 月 ち ゝ ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

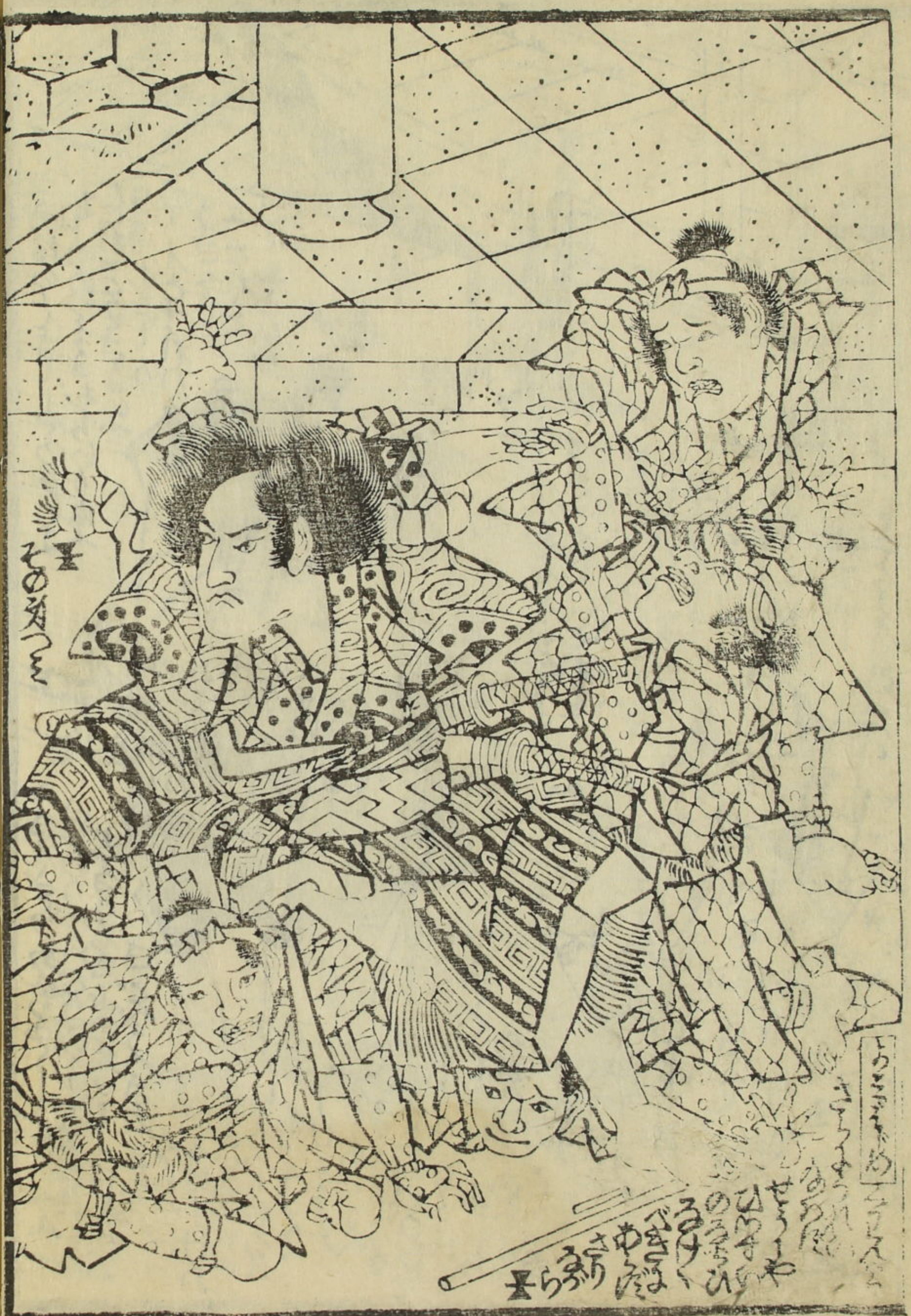
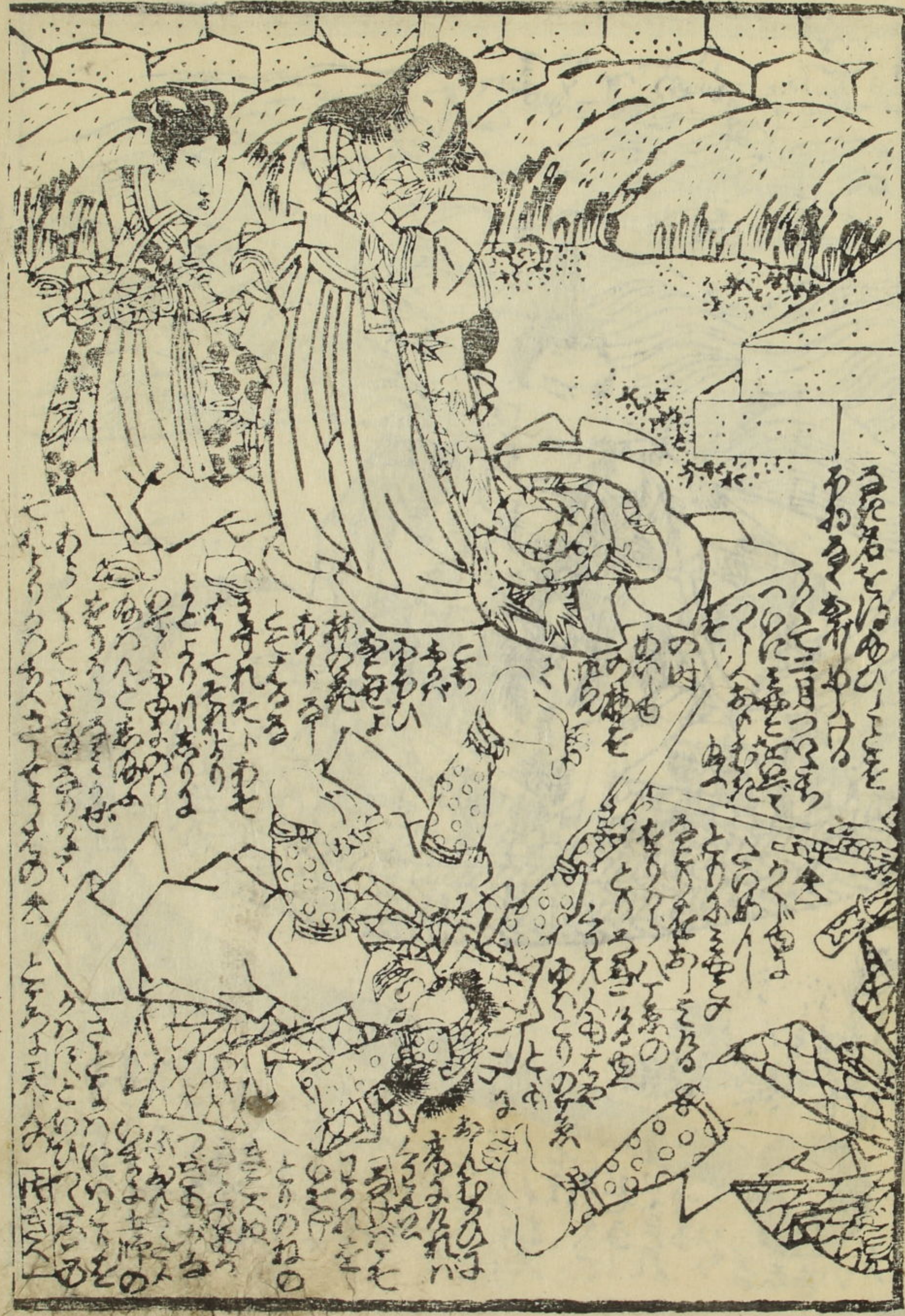
さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ
さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ
さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ
さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ
さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ

さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ
さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ
さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ
さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ
さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ

さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ
さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ
さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ
さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ
さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ



さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ
さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ
さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ
さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ
さ ん ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ



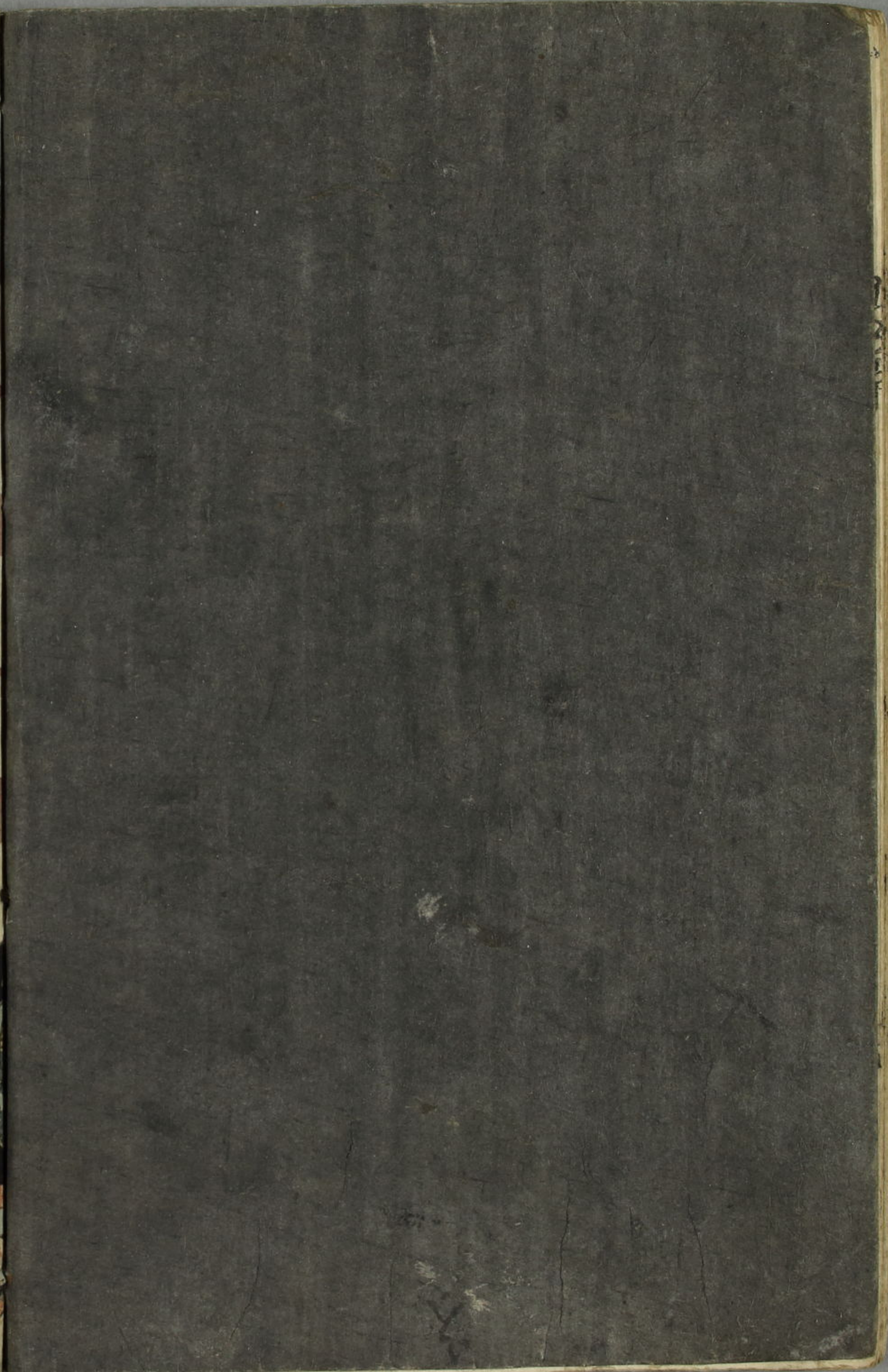
ちいり
終末



菅原源實傳記

丁亥春新販

通油街
書房
仙鶴堂



四



☆さくらんぼの
 おちのついで
 さくらんぼの
 おちのついで
 さくらんぼの
 おちのついで

五月十九日
 九日昔
 三月九日昔

海軍少将の
 志願より
 仙雀堂版

後快
 徳升撰述
 国安画図
 友原実傳記
 丁亥春
 仙雀堂版



天
 右の山と
 よひなりつて
 白き更考ま由
 後さこ人ら
 ひささのひま
 あんるんを
 あんるんを
 なる今のま
 くのあんな
 これより
 とつとつと
 なるなる
 けつとつと
 あつとつと
 あつとつと
 あつとつと



天
 右の山と
 よひなりつて
 白き更考ま由
 後さこ人ら
 ひささのひま
 あんるんを
 あんるんを
 なる今のま
 くのあんな
 これより
 とつとつと
 なるなる
 けつとつと
 あつとつと
 あつとつと
 あつとつと





あつれいものいなり
とまると
まゝなり



あつれいものいなり
とまると
まゝなり
あつれいものいなり
とまると
まゝなり
あつれいものいなり
とまると
まゝなり

あつれいものいなり
とまると
まゝなり
あつれいものいなり
とまると
まゝなり
あつれいものいなり
とまると
まゝなり

真なるれゆはのちのあふはくす
 つくろひひる中とりのともひん
 やのこくもてありんれがまよちて



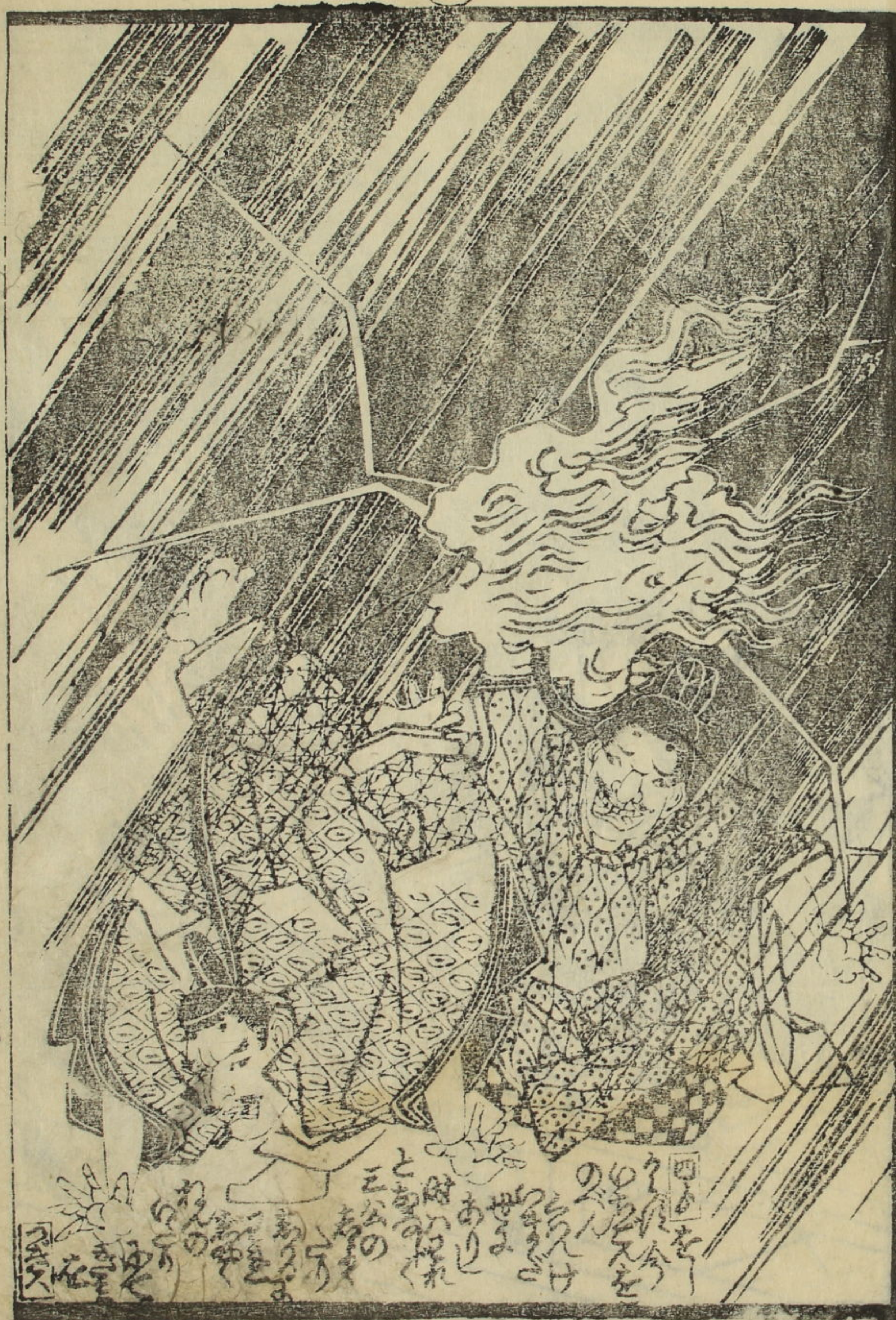
三つ折よおふかごり
 どもろれはゆきり
 あまふんそる
 おこりれこれ
 ちごいごまあち
 ちそ



三つ折

つたさるるもむらりめさる
 こまふんせせしとあさ
 こあふんやとこころま
 ころんふんころせしれ
 生をあらめまよりあ
 せ入るあしころんを
 たりてりそで死戸あを
 かけぬあゆのひととあど
 ろりあふまふんかひの
 すとらゆきりまふすの
 めをわすひるまよとの
 火にまふちまふん
 公のすんあうせよる
 これあ山のがくろてん
 のあひるり同八月十日
 より大あまちくをる
 もりてすのあてあく
 ふろまけく
 その日の

三つ折
 こまふ
 ちごい
 ちそ
 ちごい
 ちそ

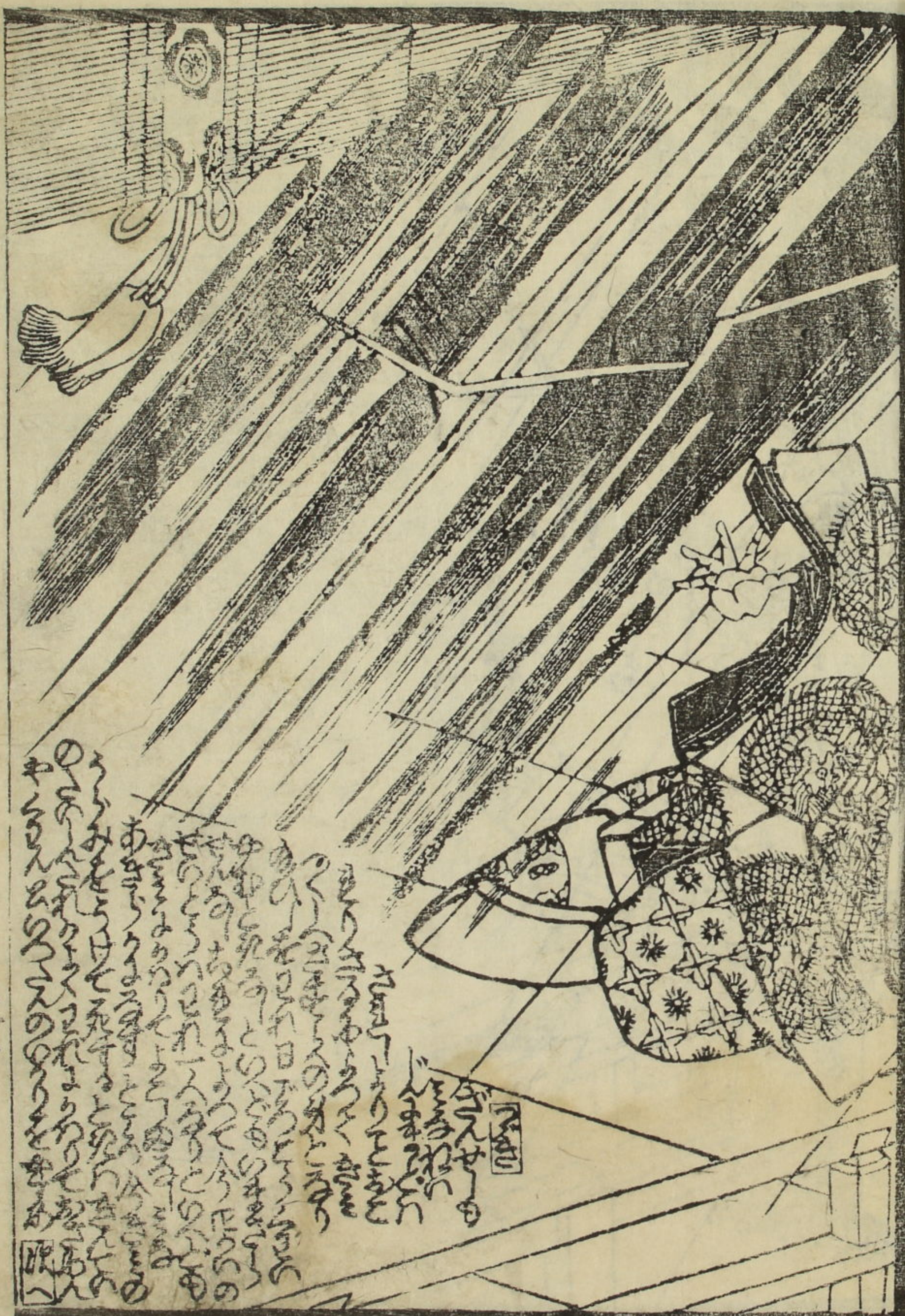
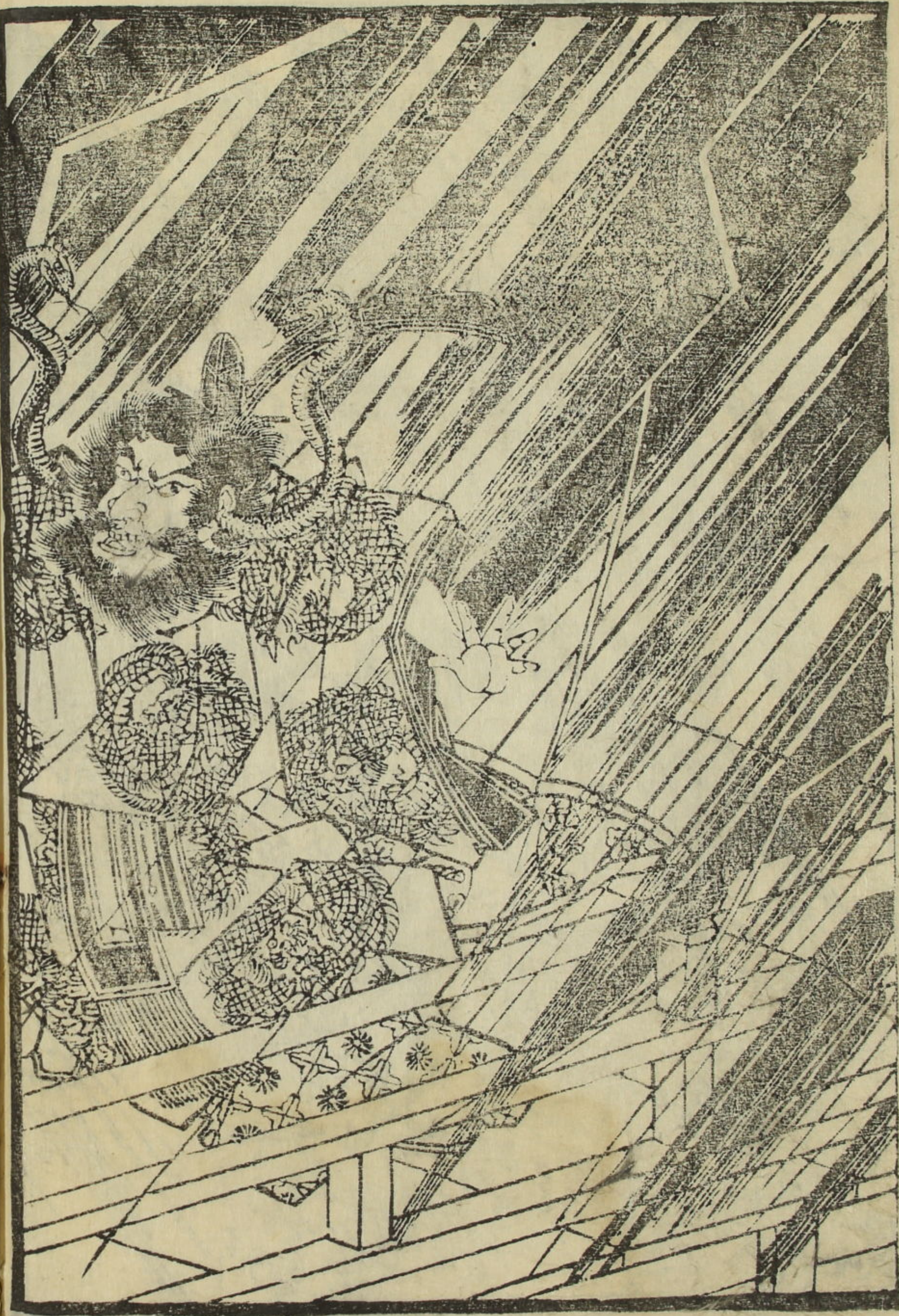


④
 ⑤
 ⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨
 ⑩
 ⑪
 ⑫
 ⑬
 ⑭
 ⑮
 ⑯
 ⑰
 ⑱
 ⑲
 ⑳
 ㉑
 ㉒
 ㉓
 ㉔
 ㉕
 ㉖
 ㉗
 ㉘
 ㉙
 ㉚
 ㉛
 ㉜
 ㉝
 ㉞
 ㉟
 ㊱
 ㊲
 ㊳
 ㊴
 ㊵
 ㊶
 ㊷
 ㊸
 ㊹
 ㊺
 ㊻
 ㊼
 ㊽
 ㊾
 ㊿
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

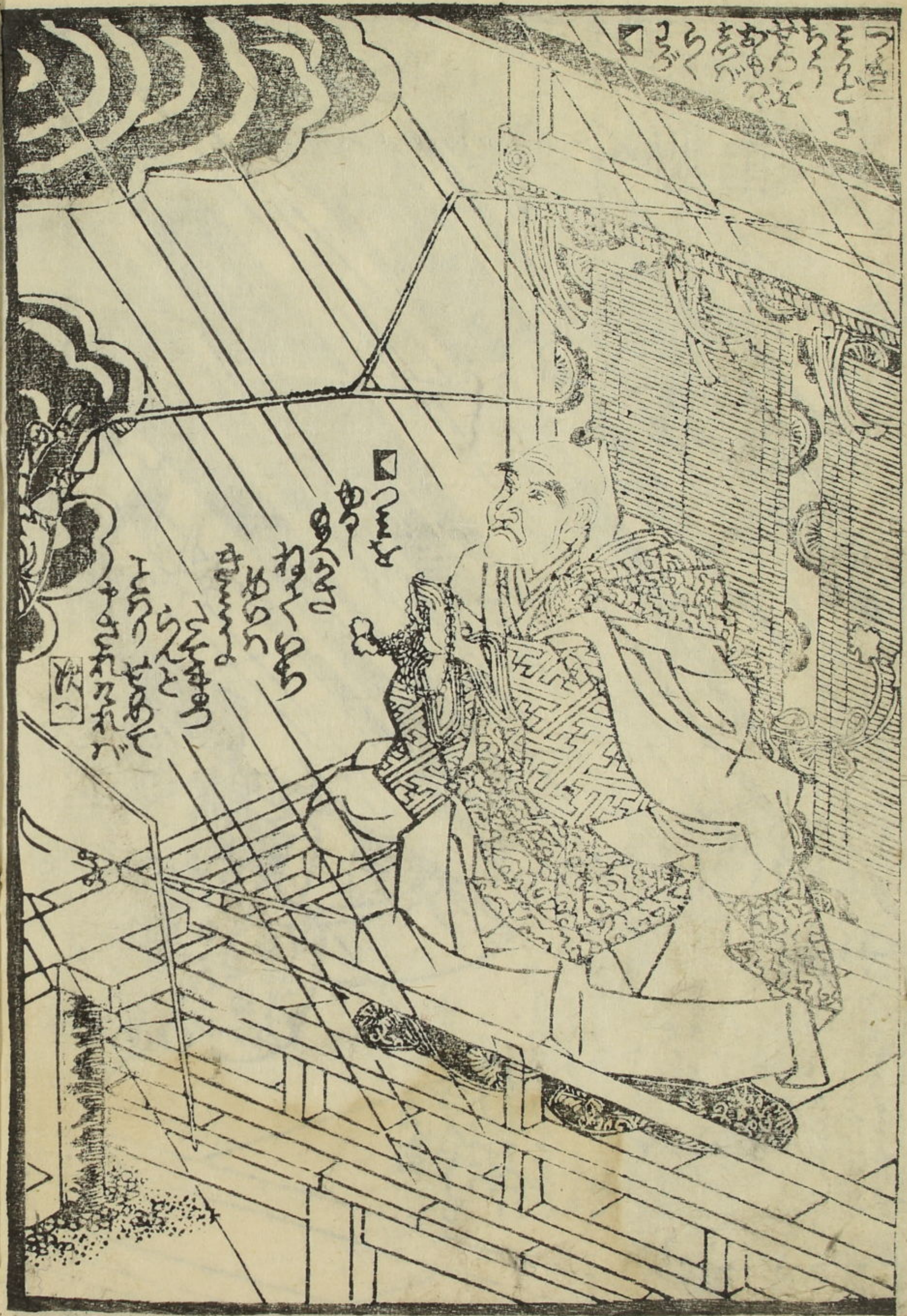
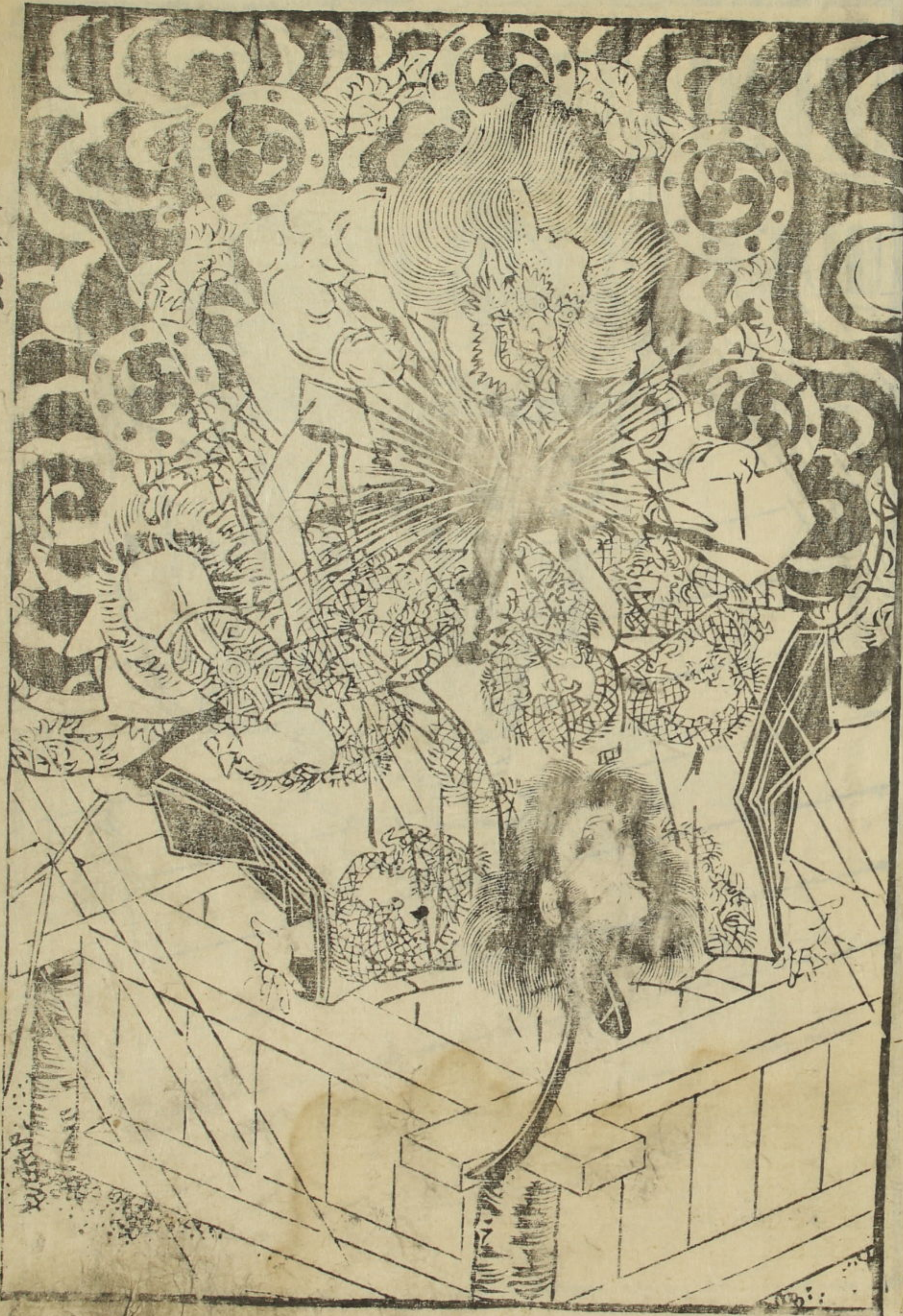


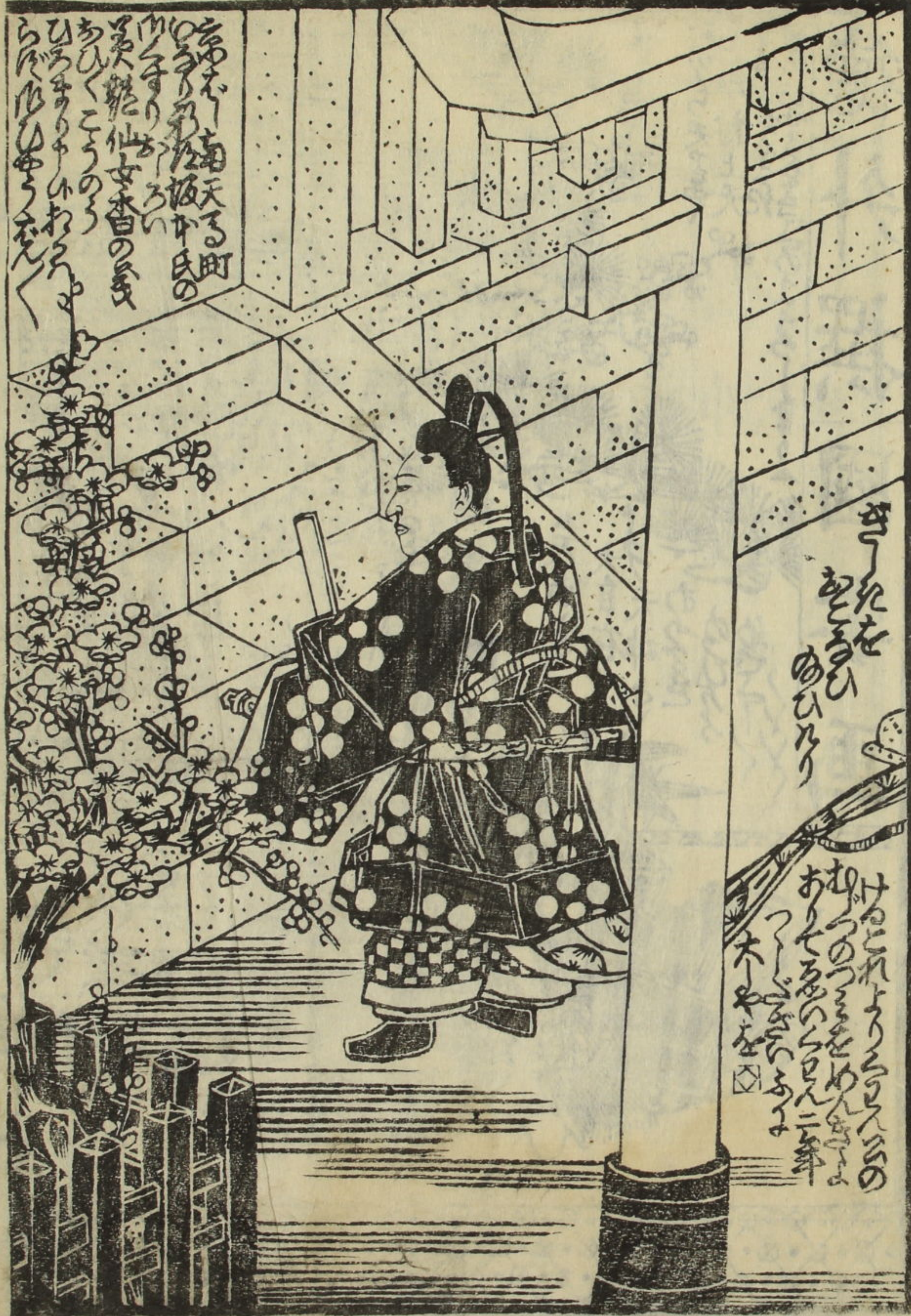
①
 ②
 ③
 ④
 ⑤
 ⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨
 ⑩
 ⑪
 ⑫
 ⑬
 ⑭
 ⑮
 ⑯
 ⑰
 ⑱
 ⑲
 ⑳
 ㉑
 ㉒
 ㉓
 ㉔
 ㉕
 ㉖
 ㉗
 ㉘
 ㉙
 ㉚
 ㉛
 ㉜
 ㉝
 ㉞
 ㉟
 ㊱
 ㊲
 ㊳
 ㊴
 ㊵
 ㊶
 ㊷
 ㊸
 ㊹
 ㊺
 ㊻
 ㊼
 ㊽
 ㊾
 ㊿
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

①
 ②
 ③
 ④
 ⑤
 ⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨
 ⑩
 ⑪
 ⑫
 ⑬
 ⑭
 ⑮
 ⑯
 ⑰
 ⑱
 ⑲
 ⑳
 ㉑
 ㉒
 ㉓
 ㉔
 ㉕
 ㉖
 ㉗
 ㉘
 ㉙
 ㉚
 ㉛
 ㉜
 ㉝
 ㉞
 ㉟
 ㊱
 ㊲
 ㊳
 ㊴
 ㊵
 ㊶
 ㊷
 ㊸
 ㊹
 ㊺
 ㊻
 ㊼
 ㊽
 ㊾
 ㊿
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



此の物語は
 昔の事なり
 今も尚ほ
 傳へられて
 居るなり
 其の事
 如何なる
 事なるか
 其の事
 如何なる
 事なるか
 其の事
 如何なる
 事なるか

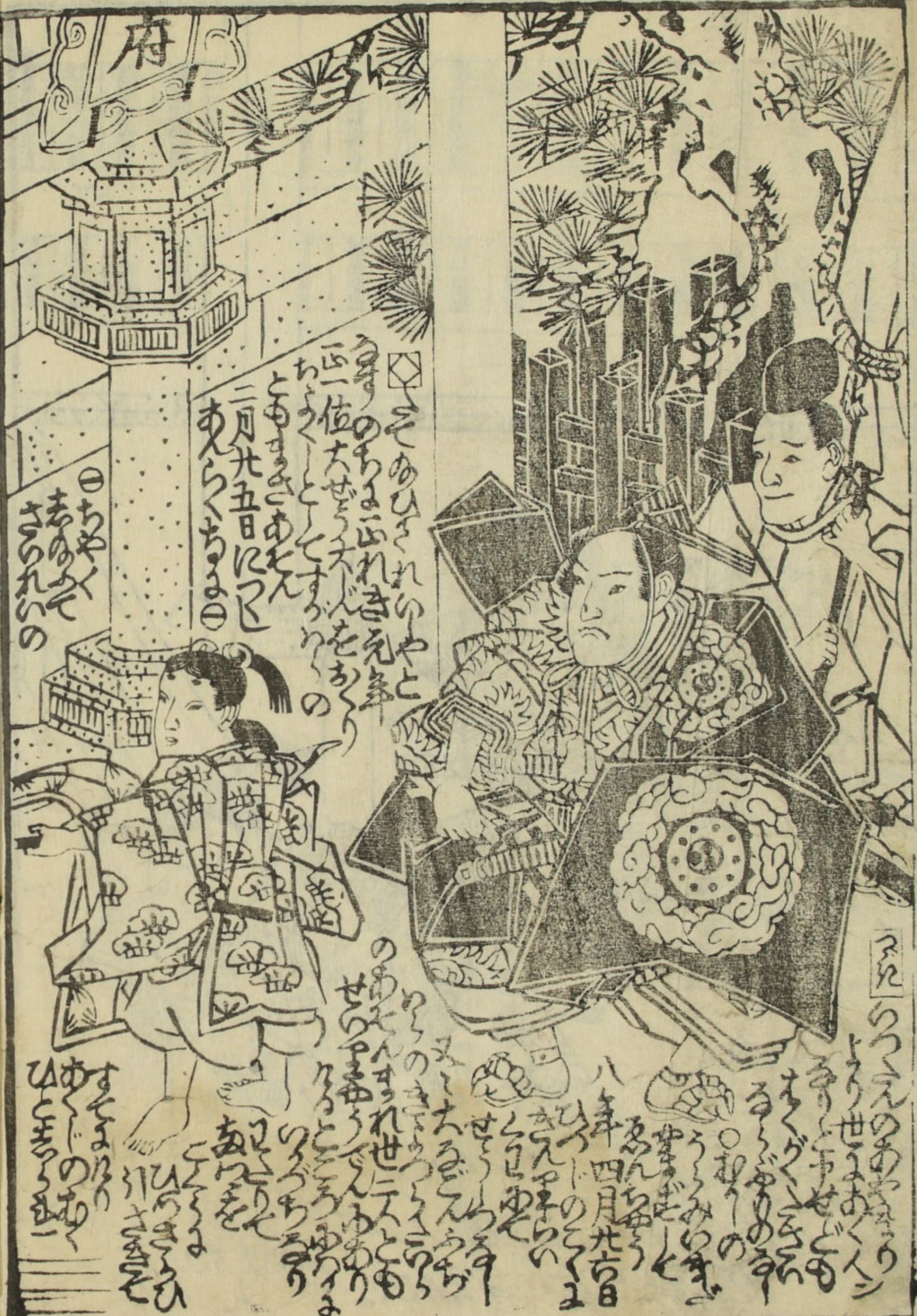




そのむすぶ天の町
のうらたけの町
のうらたけの町
のうらたけの町
のうらたけの町
のうらたけの町
のうらたけの町
のうらたけの町
のうらたけの町
のうらたけの町

きんぎょ
おひな
おひな

おひな
おひな
おひな
おひな
おひな
おひな
おひな
おひな
おひな
おひな



府

そのむすぶ天の町
のうらたけの町
のうらたけの町
のうらたけの町
のうらたけの町
のうらたけの町
のうらたけの町
のうらたけの町
のうらたけの町
のうらたけの町

おひな
おひな
おひな
おひな
おひな
おひな
おひな
おひな
おひな
おひな

府

府

德升撰國安画



御免江戸曆開板所 每年十月下旬頃より賣初め申
 所 江文社 修付て下らん

載陽帖全一册 南山禪師書 四李和文章
 石摺

新日本名所之繪 唐紙摺一枚 蕙齋鋤形絛真筆
 此西の十餘所の名所を、唐紙摺一枚に、蕙齋鋤形絛真筆にて、
 繪し置り、其の間に、南山禪師の書、四李和の文章、を
 挿し置り、其の間に、蕙齋鋤形絛真筆にて、

擬古狀擲園生竹 大紙材 西品出来 島川蘭山編撰
 此古の古の狀を、大紙材にて、西品出来、島川蘭山編撰、
 擬古の古の狀を、大紙材にて、西品出来、島川蘭山編撰、

三國一夜談全五册 画入讀本 曲阜馬琴作

即考百籤全二册 法山の筆 無あつては國書中の御書ありて、
 即考百籤全二册 法山の筆 無あつては國書中の御書ありて、

隨筆女同故言口 初編二編共 第三編三册並
 隨筆女同故言口 初編二編共 第三編三册並

右才三編三冊の、
 右才三編三冊の、

徳升撰

十一

還魂紙料 古画八二册出来 柳亭種彦隨筆

放卜所始妻の教 柳亭種彦の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教

廣益懷中早割大全 一册 上巻 下巻 柳亭種彦の教

新形漆彩目 柳亭種彦の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教

芝居似顔早稽古 後編 全一册 五渡草園貞画 乃白命常言の教

三箇之津 役者評判記 乃白命常言の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教

傾城水滸傳三編 八册 乃白命常言の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教

引削道鏡譚 六册 乃白命常言の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教

鎌倉山黄金年代鶴六册 乃白命常言の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教

道外武者太平樂 二册 乃白命常言の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教

有喜世諺草 一册 乃白命常言の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教

継子在波の濡衣 三册 乃白命常言の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教

金ヶ歌夢之世話 三册 乃白命常言の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教

義經與社軍扇 五册 乃白命常言の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教

四大王其源 五册 乃白命常言の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教

菅原實傳記 五册 乃白命常言の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教

伊達模様廓寛瀾 五册 乃白命常言の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教

忠臣蔵 乃白命常言の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教

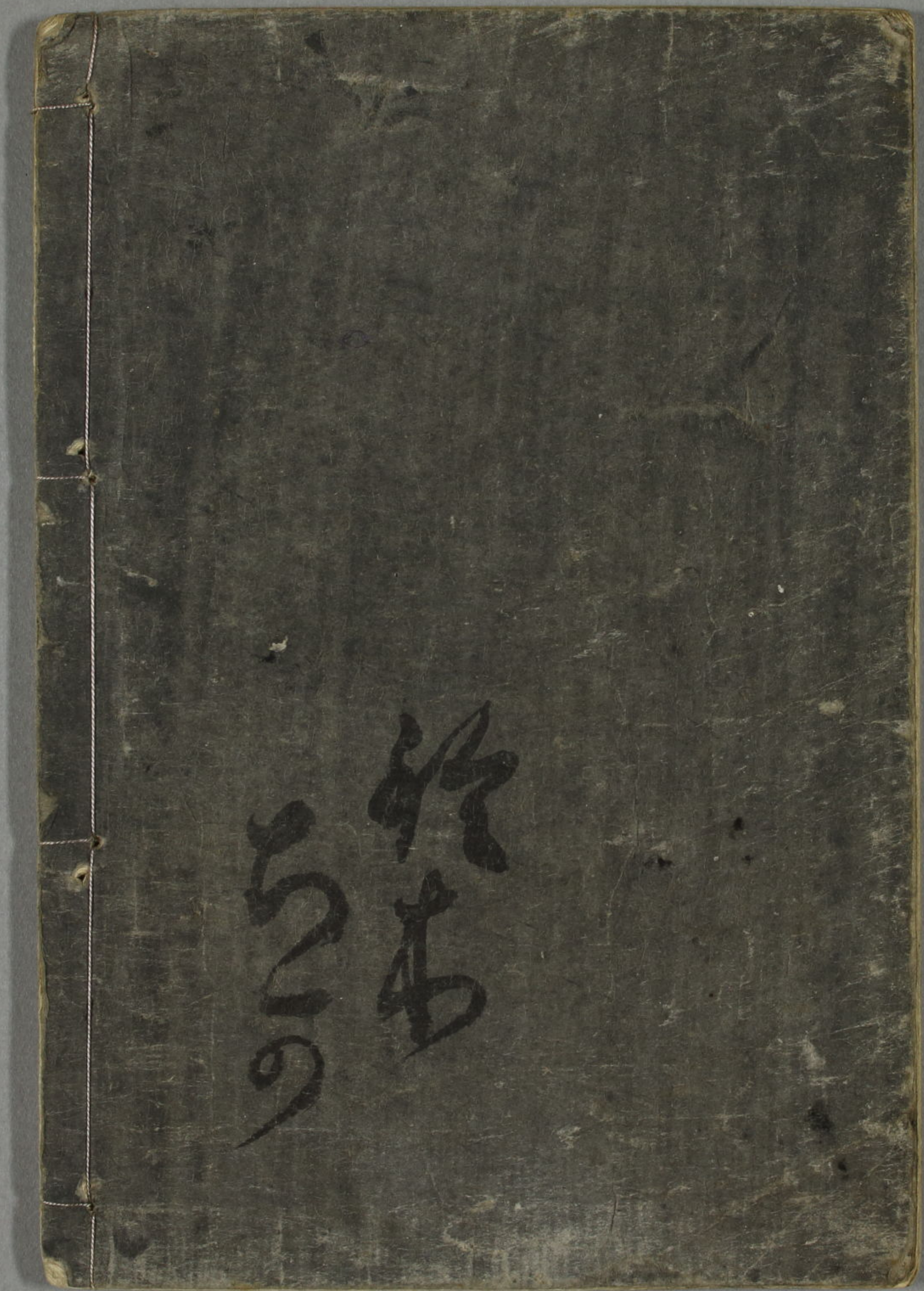
外傳伊呂波 乃白命常言の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教

鳴呼忠臣夜光珠 乃白命常言の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教

小録長壁譚 乃白命常言の教 乃白命常言の教 乃白命常言の教



通油町 鶴屋喜右衛門板



終末の巻